

【乳汁検査まとめ】

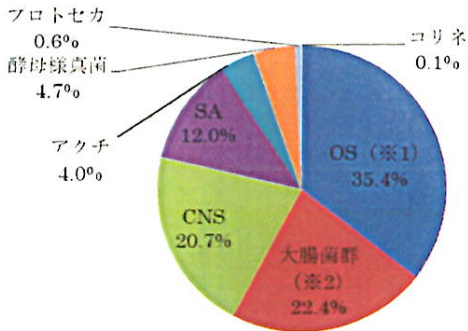
はじめに

今年も上半期が終了しました。そこで今年の1月～6月において弊社にて実施した乳汁検査の結果をお伝えしたいと思います。

検査頭数は807頭（重複含む）、検査分房数は1577分房（重複含む）でした。

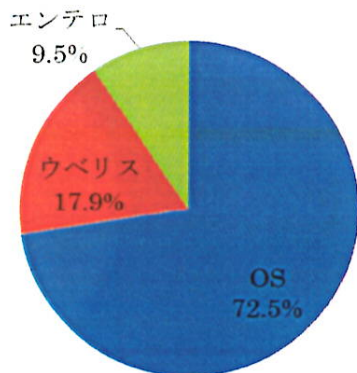
原因菌種割合

菌が検出された検体の中での原因菌種割合を以下に示します。最多はOS（※1）でした。2番目に多かったのは大腸菌群（※2）でした。次いでCNS、SAと続きます。OS、大腸菌群、CNS、SAで全体の約90%を占める結果となりました。



グラフ1 原因菌種別割合

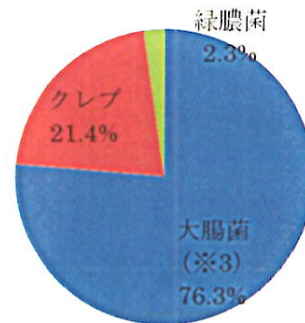
- ※1 OSにはOS、ウベリス、エンテロコッカスが含まれています
- ※2 大腸菌群には大腸菌、クレブシエラ、緑膿菌、その他の大腸菌群が含まれています
- ※ アルカノバクテリウムをアクチ、コリネバクテリウムをコリネと表記



グラフ2 OS、ウベリス、エンテロコッカス割合

※グラフ上においてエンテロコッカスをエンテロと表記

弊社の乳汁検査で使用しているイージーメディア2という培地ではOSが検出され、尚且つコロニー周囲の培地が黒く変色した場合はウベリス、エンテロコッカスの可能性もあるため簡易キットにて追加の検査を行います。イージーメディア2を使用して、オンファームカルチャーを実施している農場においてはOSと判断した場合、今回の結果においては、約3割弱はウベリス、エンテロコッカスの可能性があるということになります。



グラフ3 大腸菌、クレブシエラ(クレブと表記)、緑膿菌割合

※3 その他の大腸菌群を含む

グラフ1にて大腸菌群としたものの内訳です。大腸菌が76.3%となり最多でした。イージーメディア2において大腸菌は青く、クレブシエラは赤紫にコロニーの色が変色することで判断できます。少ないながらも緑膿菌の発生も認められます。コロニーに色が見つからない場合は、その他の大腸菌又は緑膿菌の可能性もあります。緑膿菌の場合は、ミューラーヒントン培地（感受性薬剤を測定するために使用します）が緑色になるという特徴があり、弊社の検査ではこれを判断基準としています。緑膿菌の場合は、イージーメディア2のコロニーのみでの判定は難しいと思われます。

最後に

2019年の1年間では大腸菌群（大腸菌、クレブシエラ、緑膿菌、その他の大腸菌群含む）が最多でしたが、今回はOSが最多となりました。これから気温、湿度の上昇と共に大腸菌群の乳房炎が増加してくると思われます。気温が高い日が続くと、検査



Total Herd Management Service

数自体が増え、特に大腸菌群が多いという印象を受
けます。

今回まとめた乳汁検査のデータは牛舎形態、飼養
管理、自家治療の有無等様々な農場で発生した乳房
炎の乳汁検査の結果です。なので、全ての農場に当
てはまるものではありませんので。自家治療する際
などは参考程度にお考え下さい。

富田



Total Herd Management Service